

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 市川市立鶴指小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒272 - 0025
千葉県市川市大和田 4-11-1

E-mail : __work4-tsurusashi@ichikawa-school.ed.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 237 名 女子 191 名 合計 428 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

まつり寿司から和食を考える (地域と伝統文化)

市川市立鶴指小学校
大野 正巳

研究動機

学校における食に関する指導は、学級担任を中心として、給食の時間において学校給食そのものを生きた教材として活用した指導が行われているほか、教科指導や学級活動、「総合的な学習の時間」など、学校教育活動全体の中で広く行われています。

2013年12月「和食」は「日本人の伝統的な食文化」として、ユネスコから「無形文化遺産」に登録されました。

子ども達の暮らしのあちこちに「和食」は存在しています。このような身近な「和食」を大切にし、教材に取り入れていくことにより子ども達に「日本人の伝統的な食文化」を伝えていく必要があると考え本主題を設定しました。

1. 子ども達が持っている「和食」へのイメージ

6年生のアンケートより

○和食は、日本にしかなく今では海外でも日本の和食を真似して料理を作っているから、和食は日本の誇るべき文化だと思う。

○和食は日本ならではの食べ物で外国ではあまり食べられていないものだと思います。日本人が栄養バランスなどをちゃんと考えて作っていると思います。また、季節にあった食べ物というイメージもあります。

2. 和食を学習する理由

手づくりの料理が家庭から減っている。

家庭での手作りの料理、それは食文化を伝えていくための手段のひとつです。ところが、弁当や総菜など、調理をせず食べられるものを買ってきて済ます「中食」が増えてきています。料理を手づくりしない家庭が増えているとすれば、日本の伝統的な食文化を継承していく上での「和食」の大切な要素を子ども達に伝える機会が減っています。その意味でも「和食」の手づくりの料理を学習することが必要になってきます。

行事食に接する機会が減っている。

おせち料理を囲みながら新しい一年の無事を祝うお正月、実はおせち料理を食べる人も毎年減っています。1992年（平成4年）には86.6%の人がおせち料理を食べていましたが、2012年（平成24年）には74.8%と激減しました。行事ごとに家族や地域で集まってともに食事を囲むことも「和食」の特徴です。家族や地域で行事食に触れる機会が減り続けるのだとすれば、行事にちなんだ「和食」を学習することが大切になります。

3. 和食を中心とした包括的な授業の構築

以上の理由から、「和食」を学習する必要があるが、こときまって「和食」という単元がどの教科・領域にあるわけではない。

では、「和食」の学習をどのように扱ったら良いのだろうか。

主に考えられるのが「家庭科」「総合的な学習」などであろう。これらの教科・領域を包括的に扱い「和食」という学習を扱っていく必要がある。

(1) 家庭科の中の「和食」の扱い

☆**伝統的な食事**に欠かせないごはんのみそ汁の調理をする。

- ・米やみその特徴を調べ、理解させる。
- ・水の分量や加熱時間を考えてごはんを炊いたり、実の組み合わせや切り方、加熱のしかたを考えてみそ汁を調理するようにする。

※特にみそ汁について日本の伝統「和食」のだしに注目させる。

- ・郷土料理としての「和食」

◎**地域の伝統の上に考えられたまつり寿司づくり(太巻き寿司)**を担当と栄養士が協力して子どもに指導し、親を囲んで共に食事を楽しむ。

(2) 総合的な学習としての「和食」の扱い

- ・和食についてテーマを持って調べる。

☆身近な人びとへ感謝の気持ちを伝える方法を考え、実践する。(3)

- ・郷土料理としてのまつり寿司(太巻きすし)をつくる。

考察

今までは、総合的な学習や家庭科、特別活動などでばらばらに扱われていた食に関する授業も視点を変えて「和食」というものを通じて学習をすることで1つの統一された学習にすることができた。なにも新しいことをするばかりでなく、このことはESDという持続可能な活動にすることができる。

身近な教材を別の視点で見ることで新たなESDの活動が見えてくるような気がしている。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他()